

ガラスびんは何回も 生きかえります

—あなたも資源の生産者です—

平均残余年数三年から六年。これは、全国のゴミ埋立地の今後の使用可能年数です。再利用できる資源をすて、大量消費、大量廃棄のライフスタイルを続けてきた結果です。ゴミ問題解決のため、わたしたちは使い捨て文化や過剰包装などを見直し、さらに資源ゴミのリサイクルを真剣に実行する時にきています。

ガラスびんをもう一度 資源にする二つの方法

ビールびんやお酒のびん（二・ハリットル）は、昔から酒屋さんが引き取ってくれます。このシステムは百年あまりの歴史があり、ビールびんは95%、お酒のびんは85%が回収されて、再び利用されています。こういうびんをリターナブル（返却可能な）びんといい、洗って再使用しています。ビールびんやお酒のびんのほか、清涼飲料水や牛乳のびんもリターナブルびんです。

もう一つのびん類は、ワンウェイびんといって、回収システムのないものです。びんによっていろいろな形があり、これらは溶かして再利用します。

分別あるひとは分別 回収に協力しています

平成五年六月から始まった分別回収は、みなさんのご協力で軌道に乗ってきました。ここでもう一度、分別回収の方法を確認しておきましょう。

ガラスびんはこうして生きかえる

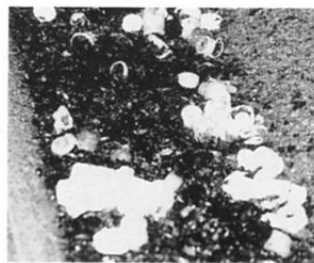
Ⅱ ガラスびん工場見学 Ⅱ

昨年からはまったガラスびん工場の見学（大垣市にある丸硝株と日本耐酸壘工業株）は、今年も六月に三回に分けて実施されました。現場からレポートしましょう。



①各地からさまざまなガラスびんが集まってきます。キャップやラベルがまだくっついていきます。

②ガラスびんは粉碎されベルトコンベアーにのります。



③人の手で不要な物（キャップ、金属など）が取り除かれます。皆さんあざやかな手つきです。

